

同窓会報

(第55号)

発行：〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 池田知行
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
印刷：有限会社 プリントピア
TEL. 043-301-6500

就任のご挨拶



同窓会会長 池田知行
(昭和54年卒)

ミラノ・コレティナ冬季五輪の後は、春一番も吹いて随分と暖かくなつてまいりましたが、千葉高同窓会の皆さまには、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より同窓会活動にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私、令和8年1月17日開催の定時理事会において林前会長のご推挙で理事の皆さまのご承認を得て、千葉高同窓会会長に就任いたしました。本同窓会は昭和21年に発足し、初代永井準一郎氏から数えて私で十代目となりますが、長い歴史と

伝統を誇る同窓会の会長を務めさせていただくことは大変に光栄であると同時に、その重責を改めて痛感しております。これまで6年間、副会長を務めていたとはいえ、前会長とは卒業年次が15年も離れており、現役勤務者でもありませんので一旦はお断りしたのですが、どうしてもということでお引き受けした次第です。幸い、戸谷久子副会長(昭46卒)、阿佐幸雄事務局長(昭35卒)には留任していただき、また、今回新たに3名の副会長を迎えました。力を合わせて同窓会事業を盛り上げ、同窓の輪を一層広く、絆深いものにしてまいりたいと思っております。自己紹介を改めてさせていただきます。

ですが、私は昭和35年、広島県呉市の生まれ。幼稚園から中2まで都内で過ごし、中3の時に稲毛中に転入して、昭和51年に千葉高に入学しました。昭和54年に卒業し、一浪で早稲田大学政治経済学部に進み、昭和59年に千葉銀行に就職しました。平成30年に銀行本体の役員を退任した後は、グループ会社の社長・会長職を務めておりました。令和7年にグループ会社役員を退任し、現在は(公財)千葉交響楽団の参与として、千葉県唯一のプロ・オーケストラの運営に携わっています。

千葉高時代は合唱部に所属して故相山稔先生の薫陶を受け、現在も合唱には継続して取り組んでいます。また、小4から吹いているフルートについては、師匠の糸井正博先生(昭42卒、もと東京フィル首席奏者)が(二社)日本フルート協会の副理事長・事務局長である関係で、

同窓会の仕事もお手伝いしています。

千葉高の前身、旧制千葉中学校は明治11(1878)年の創立。私が高3のときに創立百周年でした。奇しくも再来年の令和10(2028)年には百五十年を迎えることとなり、自身の巡りあわせに運命的なものを感じるころではありますし、同窓会でも記念事業を計画中です。百五十周年記念事業はもとより、同窓会活動のさらなる活性化に向けて、皆さま方のご指導・ご協力を賜りますようお願い、何卒よろしく願っています。

退任のご挨拶



同窓会前会長 林 孝二郎
(昭和39年卒)

千葉高同窓会の皆様にはご健勝にお過ごしのことと存じます。

さて、私こと、令和2年より3期6年間、会長を務めさせていただきましたが、昨年度をもちまして退任することといた

しました。この間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で総会が中止されるなど十分な同窓会活動ができない時期もありましたが、会員の皆様のご協力ご支援のお陰で無事にその任を果たすことができましたこと、厚く御礼申し上げます。

在任中には、常設委員会を拡充するなど同窓会組織の充実

同窓会報第55号 もくじ

就任のご挨拶	池田知行	1
退任のご挨拶	林 孝二郎	1
校長報告	前校長 高梨祐介	2
ご挨拶	学校長 増田武一郎	3
副会長就任挨拶	副会長 吉田節子	3
	副会長 折原 亮	4
	副会長 牧之瀬 孝	4
ご挨拶	葛の花会長 志賀吉郎	4
事務局報告	事務局長 阿佐幸雄	5
会報寄付者一覧		5
支部だより		6
OB・OG会だより		6
学年短信		8
母校支援報告		12
令和8年度定時理事会・総会報告		19
葛城人脈		22
令和8・9年度本部役員		24
チャレンジ応援基金について		24
母校の活動報告/葛城だより		24

を図るとともに、常務役員会の定期開催により母校への支援活動や会員名簿データベース・ホームページの改良、同窓会報の増刷・拡充などを進めることができました。役員、事務局の皆様への努力に感謝いたします。また会員皆様より同窓会報へ多大なご寄付をいただいたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

私の後任には昭和54年卒の

県立千葉中学校・高等学校近況



前校長 高梨 祐介

千葉県高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

令和6年4月に校長として着任し2年となりました。本校

池田知行さんをお願いすることとなりました。大分若返りですが副会長としてこれまで存分の活躍をされてきておりますので、同窓会の更なる充実、活性化に貢献していただけるものと確信しております。母校は再来年には創立150周年を迎えます。母校のますますの発展と会員の皆様のご健勝をお祈りし退任のご挨拶とさせていただきます。

は常に多くの方々から注目を浴びており、日々、緊張感を持って業務に取り組んでおります。昨年度に引き続き、特に生徒や教職員にとって安全・安心で過ごしやすい学校であるよう教育環境の整備と生徒の健康な身の育成に力を入れております。生徒・保護者から信頼される学校となるよう努めてまいります。

令和7年度も同窓生の皆様には、「総合的な探究の時間」等

をはじめ様々な場面で本校の教育活動に御協力いただきまして。 「総合的な探究の時間」では、6月に実施された1学年外部講師講演会で森川博之様(昭和58年卒)から『デジタル』への向き合い方』との演題で講演をいただきました。

また、10月に実施された2学年外部講師講演会「先輩に学ぶ」では、東寿浩様(平成12年卒)が司会を務め、講師として、佐々木俊介様(平成12年卒)、坂尾佑平様(平成17年卒)、坂本彩様(平成17年卒)、小野口玲菜様(平成18年卒)、花桐博史様(平成19年卒)、千代田修平様(平成24年卒)にお越しいただき、現在の職業や仕事のこと、千葉高に在学していた時の話をされ、生徒は興味を持って聞いていました。

他にも「学部・学科説明会」、「中学校社会人講演会」、「進路指導部行事」等で、講演等に御協力いただいた同窓生の方々がたくさんおられます。紙面の関係ですべてを御紹介できないことを御容赦ください。公私と

にもお忙しいなか、母校の後輩たちのためにお時間を割いていただき、心から感謝申し上げます。この場を借りて御礼申し上げます。引き続き本校生徒の教育活動充実のために同窓会の皆様への御支援、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

また、同窓会からは生徒の部活動への支援もいただいております。令和7年度は全国規模の大会に参加した書道部(全国高等学校総合文化祭出場)、将棋部(全国高等学校総合文化祭出場)、地理部(世界ジュニア・アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権大会出場、日本地理学会春季・秋季学術大会高校生ポスターセッション会長賞受賞)、クイズ研究部(全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」出場)にお祝い金をいただきました。ありがとうございました。また、同窓会支部や各部活動OB会等から個々の部活動等への御支援もいただいております。重ねて御礼申し上げます。

話は変わりますが、本校は令和8年度で創立から148年目となり、あと数年で150年を

迎えます。令和8年度は校内に準備委員会等を立ち上げ、同窓会と連携しながら準備を進めていければと思います。よりよい形で150周年を皆さんと迎えたいと思います。同窓会の皆様におかれましては、本事業に御理解をいただき、お力添えをお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育を取り巻く状況は、刻々と変化しています。本校もその変化に対応できるように、創立以来培われた本校の伝統を重んじながらも、新たな流れを取り込んでいきたいと思っています。今後とも、千葉県のフラッグシップ校としてのプライドを持って教育活動を進めてまいります。同窓会の皆様には、引き続き御支援、御協力を重ねてお願い申し上げます。

私事ですが、この度、3月末をもちまして退職する運びとなりました。2年間と短い期間でしたが、同窓会の皆様方には大変お世話になりました。御厚情を賜り、心より感謝申し上げます。千葉高校同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

ご挨拶



校長 増田 武一郎

この度の人事異動で、令和8年4月1日に千葉県立千葉高等学校に着任しました校長の増田武一郎です。前年度までは、教育庁教育振興部学習指導課長として、児童生徒の学力向上、県立高校の入学者選抜の改善、日本語指導が必要な児童生徒への対応等に携わってまいりました。校長としては2校目、3年ぶりの勤務となります。

3月末に教育長から本校への内示を受けた際は、久しぶりに学校勤務が叶ったことへの喜びとともに、創立以来百五十年にもなろうとする伝統の重さにも身が引き締まる思いでした。同窓生の皆様方の期待に応えられるよう精一杯尽力していく所存です。どうぞよろしくお願いたします。

さて、高校教育を取り巻く環境は、この5年間で激変ともい

える変化を遂げています。コロナ禍に見舞われ、対面での授業が成り立たず、遠隔授業の方法等ICTの効果的な活用が急速に流布したこと。人口減少ともない、中学校卒業生数の減少も確実に進み、定員を充足しない高等学校が半数近くに上ること。私学無償化が実現し、公立の魅力や価値が相対的に論じられるようになったこと。そして、AIが人間の能力の一部を確実に凌駕することが明らかかな時代の到来です。

コロナ禍は、学校に参集することの意味を改めて問い直す契機になりましたし、人口減少は学校を含めた行政サービスの継続性を危ういものにしています。その上で公私別な多くの財政措置は生徒の選択肢が広がる一方、公立高校に生存競争を自覚させることとなりました。さらに、AIの登場によって、人間の価値とは何か、教師の存在意義とは何か、これまでの自明を問

い直す必要に迫られています。こうした試練とも言える状況において、文部科学省は令和8年2月、『高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)』(2040年に向けた「N・E・X・T(ネクスト)ハイスクール構想」)を発表しました。現在より一層進む生徒の大幅な減少、学校の統廃合による地方での教育機会の減少が懸念される2040年に向けて、国全体としての共通ビジョンを打ち出したものです。

そこで示された高校改革の視点の一つに、「不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長」が挙げられています。AIに「代替されない」と自体が教育の方向性に位置づけられるのは、教育によって、人間そのものの価値を改めて見据えなければならぬ時代が到来したことを示唆しています。しかしながら、本校の教育目標を改めて見ると、「民主的國家社会の有為な形成者」「健全な批判力」「自主的精神」「自他の敬愛と協力」「豊かな個性」「真理と正義」「勤労と責任」等、「AI時代」の到来を念頭におくと、人間ならではの価値創造を

明確に目指したものであることが浮き彫りになります。本校の教育は、決して「代替されない」人間のものです。これからも、社会の変化のスピードが緩むことはないでしょう。生徒一人ひとりが、本校の学びを通して、こうした基盤的な力を身に付け、社会の変化に主体的に向き合い、自らの可能性を存分に発揮することを信じています。

副会長就任のご挨拶



同窓会副会長 吉田 節子

(昭和57年卒)

千葉高同窓会の皆さま、この度、同窓会副会長に選任頂きまして昭和57年卒の吉田節子と申します。昭和57年に母校を卒業して以来、なかなか同窓会に参加する機会もありませんでしたが、40代になってから母校への訪問の機会、同窓会に参加する機会が増えました。

また以前から参加させて頂いていた葛城建友会や地域の同窓会を通じて、千葉高の世代を超えた先輩から後輩への繋がりを自分も伝えていく番になっていくことを感じました。

千葉高の先輩方と過ごす時間は、知識の広さや人生の体験

を惜しみなく分け与えて下さる時間であり、いま思っても感謝しかありません。時期は違えど、高校3年間を葛城の丘で過ごした同窓生だからこそわかり合える言葉や経験があります。これからは、下の世代の方々にも先輩方からの言葉や経験を伝える機会を増やせたら、と期待しております。

明治11年創立の我らが母校は、令和10年11月に創立150年を迎えます。歴史と伝統、そして素晴らしい人材の輩出は、私たち同窓生一人一人の誇りです。微力ではありますが、この素晴らしい千葉高同窓会により多くの方が参加できるように、運営に参加致します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

同窓会ホームページ→ <https://chibako.net> ☎043-239-5550 FAX.043-239-5551

副会長就任のご挨拶



同窓会副会長 折原 亮
(昭和59年卒)

本年一月の理事会で副会長を拝命いたしました昭和五十九年卒の折原亮です。昭和四十年生まれの若輩者ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。私たちの世代の思い出といえ

ば、春の強歩大会です。九十九里浜を歩き抜いた経験は、その後早稲田大学での百キロハイク完歩、そして還暦を健康に迎える大きな糧となりました。卒業後は旅行会社を経て千葉市役所に入庁し、本年三月に定年退職を迎え、新年度からは、市内の事務所で勤務予定です

副会長就任のご挨拶



同窓会副会長 牧之瀬 孝
(昭和61年卒)

令和8年(2026年)1月17日に開催された同窓会定時理事会にて、新たに副会長に選任されました昭和61年(1986年)卒の牧之瀬孝と申します。昭和43年生まれ若輩者ですが、宜しくお願い致します。

現役時代は野球部に在籍し、仲間とともに汗を流した日々は私の原点です。現在は、現役野球部の試合を球場で応援したり、地元のプロスポーツチームを応援したり、と専ら見る専門です。卒業後は、早稲田大学を経て千葉銀行に勤務し、仕事を通じて地域と向き合っています。

す。

同窓会活動には令和四年度より職域理事として参画し、今春は総会・懇親会の幹事という大役を務めさせていただきました。皆様の多大なご協力に、改めて深く感謝申し上げます。今後は池田知行会長のもと、役員・事務局と一致協力し、世代を超えた同窓生の交流と、母校ならびに同窓会のさらなる発展に尽力してまいる所存です。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

千葉銀行にも、千葉高出身者で構成する「ちばぎん葛城会」がありまして、年一回懇親会を開催しています。現役合唱部の皆さんにお願いしているミニコンサートが大変好評で、世代を超えた交流の大切さを感じています。

これまで総会への参加は、いわゆる「赤点」でしたが、副会長就任を機に積極的に関わり、世代を超えた交流が更に広まるように努めてまいります。何卒、宜しくお願い致します。

ご挨拶



葛の花会会長 志賀 吉郎
(昭和38年定卒)

葛の花会の会長に就任し二年目となりました。本年も葛の花会総会を開催するため、事務局一同準備を進めております。

会場は例年通り、千葉市中央区の「ホテルプラザ菜の花」で行う予定をしております、会員の皆様の参加を期待しています。

最近の総会で同級の会話で通学当時の思い出を話すことがあります。

ひとつは、下校時の帰宅する交通の方法でした。学校から本千葉駅に向かう人、当時房総東線(外房線)、房総西線(内房線)で帰宅する人、また私はバス利用で県庁前、又は大和橋から現在のアリオ蘇我の川崎町に帰宅していました。

さらに、東金方面に帰る人は大和橋バス停から、電車で帰

宅する人は千葉駅(当時は現在の東千葉駅)に向いました。そんな中で、私も千葉駅まで行って、その栄町の雰囲気を感じながら、駅前交番近くの「あま太郎」焼きの、和田商店の知人を訪ねた記憶があります。

また、クラス仲間と雲取山への登山です。男女数名で埼玉の秩父鉄道の熊谷から、三峯口駅を目指しました。当時はガイドブックもうる覚えで、秩父鉄道の電車に乗ったものの、遅い時間で目的の三峯神社の登山駅までたどり着けなくなり、途中のお花畑駅から翌日の始発で行くこととなり、駅員との交渉の末、好意で車中での一泊させてくれたときは、本当に嬉しく当時のメンバーを思い出します。

この話を父に話したところ、父の姪がとなりの影森の近くに住んでいること聞き驚いたことを思い出しました。

150周年へのカウントダウン
—デジタル基盤と新体制で進む同窓会の未来—



同窓会事務局長 阿佐 幸雄 (昭和35年卒)

明治11年の創立から、いよいよあと2年。令和10年(2028年)11月に迎える創立150周年の大きな節目が、その足音を響かせながら近づいてまいりました。昨年、母校の象徴である「講堂」のリノベーションへの想いと、それを支える事務局体制の脆弱さへの危機感を述べさせていただきました。しかし、この一年で同窓会は、来るべき大事業を支えるための「組織の若返り」と「強固なデジタル基盤」という二つの大きな翼を手に入れることができました。

名簿データベースの刷新

組織の若返りと並行して取り組んできたのが、運営の要となる名簿管理システムの近代化です。本会では130周年以来、個人情報保護の観点から紙の名簿発行を控え、データベース(DB)化を進めてまいりました。しかし、近年システムの老朽化が課題となっておりました。

そこで昨年末から本年初頭にかけて、700万円の予算を投じてシステムを最新バージョンへと刷新いたしました。この3月から運用を開始した新DBは、総会案内や寄付記録の管理だけでなく、会報の個別発送管理など、事務の正確性と効率を飛躍的に向上させています。

厳格な運用で信頼の構築

システムの高度化に伴い、より一層重要となるのが「情報の取り扱い」です。各年次の名簿委員には、年度専用のパスワードを発行

し、同期会開催などに活用していただいておりますが、名簿委員には必ず「誓約書」の提出を義務付けています。この誓約書は、目的外使用の禁止やID・パスワードの厳重管理を誓うものであり、私自身も一名簿委員として、名簿委員長へ提出いたしました。デジタル化を進めるからこそ、アナログな「志」と「責任感」を大切にします。これこそが千葉高同窓会が守るべき信頼の形であると考えています。

150周年事業への道筋

125周年、135周年と、皆様のご厚志により記念館改修やトレーニングルーム建設、新運動場建設など大きな足跡を刻んできました。次なる150周年事業の柱となる「講堂のリノベーション」は、母校の歴史を次世代へ引き継ぐ象徴的な事業であると考えています。私が事務局長を拝命して20年。この20年で最も若々しく、かつシステム的にも強固な体制が整いました。

新任の役員や、若い事務局員の柔軟な発想を活かし、150周年に向けた準備を加速させてまいります。新役員名簿(24頁参照)の通り、各委員会の正副委員長体制もようやく整いました。会員皆様におかれましては、この新体制を温かく見守っていただくとともに、事業への積極的な参画を心よりお願い申し上げます。

会報寄付者一覧
(敬称略・卒年順)
1万円以上の寄付者名は太文字

- 昭和30年会 岩田 文裕、掛橋 文夫、兵藤 保、松本 啓、仁茂田 豊生、安藤 伸治、川崎 房枝、中村 浩紹、塙 登志也、吉田 智良、宮田 末男、宮原 曉、山下 庸明、山中 齊、吉川 洋子、辻 隆之、高澤 正、小川 礼子、松丸 秀邦、鈴木 康司、磯貝 正治、昭和32年 斎藤 喜久三、斎藤 喜久三、矢島 肇、昭和27年 小仲井 誠次、昭和28年 岩田 文裕、掛橋 文夫、兵藤 保、松本 啓、仁茂田 豊生、安藤 伸治、川崎 房枝、中村 浩紹、塙 登志也、吉田 智良、宮田 末男、宮原 曉、山下 庸明、山中 齊、吉川 洋子、辻 隆之、高澤 正、小川 礼子、松丸 秀邦、鈴木 康司、磯貝 正治、昭和33年 正治、昭和34年 伊藤 貞雄、高仲 達也、土屋 富士雄、篠崎 玄幸、瀬山 俊一、昭和35年 阿佐 幸雄、西林 聖武、和田 桂二、富澤 誠二、小野 武、関根 眞佐子、高師 弘子、服部 孝道、守 正英、佐藤 英幸、富樫 長昭、北島 康史、昭和36年 小野 武、関根 眞佐子、高師 弘子、服部 孝道、守 正英、佐藤 英幸、富樫 長昭、北島 康史、昭和37年 中野 義澄、西村 正洋、辻元 洋一、藤田 素行、間山 隆子、駒井 隆子、宮原 忍、宮本 四洲雄、昭和39年 小関 志美子、今村 文彦、上平 隆治、昭和40年 大森 耕一郎、土肥 哲英、長谷川 和敏、林 孝二、日暮 久嗣、山田 雅敏、渡辺 直子、村杉 雅敏、林 茂範、沢田 兼六、伊藤 浩美、磯村 芳則、太田 博之、沖田 之、島田 宏子、諷 邦明、藤倉 國男、近藤 恭弘、仲田 正躬、板倉 喜一郎、伊澤 勝行、宇田川 民江、林 美智代、和田 正民、昭和41年 今井 和彦、齋藤 友博、千葉 右子、小池 新、西川 久夫、島田 久夫、久保田 光一、水上 健、吉成 隆杜、松崎 弘子、鈴木 昇、秋葉 隆三、小林 芳枝、山本 善夫、中田 善樹、昭和42年 田崎 敏夫、長谷川 恵子、森 正美、小倉 久茂、太田 喜行、昭和43年 秋葉 隆三、小林 芳枝、山本 善夫、中田 善樹、昭和44年 田崎 敏夫、長谷川 恵子、森 正美、小倉 久茂、太田 喜行

同窓会報の個別配布・寄付状況

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
会報号数	第52号	第53号	第54号
発行部数	8,000	8,500	8,500
個別配布数	6,050	6,300	6,600
寄付人数	194	216	186
寄付金額	1,261,500	1,318,000	1,283,500

※ 本年の第55号は、9,000部発行、個別6,700部の予定

川添 公貴	山本 喜一	岩崎 義宣	【昭和51年】	子安 和弘	梁瀬 朗生	滝口 哲夫	【昭和49年】	大塚 眞由美	【昭和48年定】	金子 昇	森口 浩	長谷川 弘子	【昭和48年】	渡辺 敏恵	西原 美穂子	平岡 実治	鵜澤 実治	岸高 清	佐久間嘉一郎	【昭和47年】	川島 文代	佐藤 鼎	【昭和46年定】	種谷 和信	宮下 潔	長谷川 耕司	上原 和男	小宮 敏彦	湯川 昌彦	【昭和46年】	浪方 日出男	【昭和45年定】	高倉 史朗	市原 豊	【昭和45年】	松浦 健夫	西山 恒夫	長谷川 博	富永 正道	坂井 直樹																								
高木 亜由美	崎山 雅之	小松 由佳	【昭和63年】	五十嵐 桂子	小島 一徳	【昭和61年】	山本 倫也	田中 宏一	鈴木 裕久	清水 修一	岡田 修一	石塚 伸子	【昭和58年】	非通 知	土屋 保之	葛野 義秀	【昭和57年】	國吉 康夫	宍倉 知広	常包 滋也	甲斐 聡	【昭和56年】	寺嶋 眞理子	時高 裕史	白井 護	高地 雅夫	大澤 正明	【昭和55年】	板垣 恵美	【昭和54年】	児玉 信一	内藤 栄男	【昭和53年】	千葉 総一郎	【昭和52年】	竹内 輝男	須藤 輝子	【昭和52年】	小林 靖茂	小川 美菜	【平成22年】	稲田 恵美	佐藤 雅信	【平成5年】	北原 聡太	【平成7年】	梶水 佳奈代	【平成10年】	木村 匡子	【平成12年】	依田 美佐恵	【平成13年】	仁寛	【平成13年】	須藤 考矩	松村 考矩	【令和7年】	吉武 真矢	齋藤 玲雄	【平成30年】	清水 翔	【平成23年】	川島 美菜	【平成22年】

同窓会へのご寄付は下記口座へお振り込みください

卒業生及び同期会からのご寄付は、下記口座へお振り込みくださいますようお願いいたします。お振り込み後、事務局よりご連絡いたします。

銀行名：ゆうちょ銀行
 加入者名：千葉県立千葉高等学校同窓会
 口座番号：00140-6-336678

銀行名：千葉銀行 県庁支店 支店番号：004
 口座名：千葉県立千葉高等学校同窓会 会長 池田 知行
 口座番号：普通預金 No. 3202734

●お振り込み後ホームページよりご報告ください。QRコードの頁から報告できます。

須藤 眞子	【平成2年】	須藤 美菜	【平成22年】
小川 靖茂	【平成4年】	齋藤 玲雄	【平成30年】
稲田 恵美	【平成5年】	串田 日向美	【令和4年】
佐藤 雅信	【平成7年】	吉田 健人	【令和5年】
北原 聡太	【平成10年】	平野 智輝	【令和7年】
梶水 佳奈代	【平成12年】	須藤 考矩	【令和7年】
木村 匡子	【平成13年】	吉武 真矢	【令和7年】



★長生茂原葛城会
 会長 藤井 誠 (昭和37年卒)

第67回長生茂原葛城会総会が令和7年10月4日(土)に茂原市竹りんで学校長の高梨祐介先生、同窓会本部副会長の戸谷久子さんをお招きして開催されました。

菅原会長の挨拶の中で元会長宍倉正胤氏と小高正巳氏(共にS30卒)の逝去が伝えられました。会長挨拶の後同窓会本部戸谷副会長が事務局長が来られないため急遽代理出席を求められた。

★東京葛城会
 事務局長 桑野 雄一郎 (昭和60年卒)

令和7年10月17日(金)、昨年に引き続き上野精養軒において第63回総会・懇親会を開催いたしました。

今年は何事学年である昭和63年卒の石渡幸子様に司会を担当していただき、その他の運営は幹事会のメンバーにより行いました。ご来賓の学校長の高梨祐介先生、同窓会副会長の池田知行様を含め、昨年を超える合計55名の同窓の皆さまにご参加いただきました。

と挨拶し、続いて高梨校長から今の高校では部活が積極的な活動になってきていることが報告されました。

本部挨拶、報告の後議案提出があり、会長承認と幹事補充の件が上程され、全員一致で新会長に藤井誠、新幹事に幸治昌秀氏が承認された。

その後自己紹介で近況報告がなされたが、高市早苗氏が自民党の総裁に選出された日のこともあり、今後の日本の行く末について意見が交わされたが時間も迫っており、校歌斉唱に移ることにした。

周囲の座敷に人がいないことを確認し、大声で校歌を斉唱した。歌っていると高校時代のことか思い出されます。

★東金葛城会
 会長 岸本 雅邦 (昭和39年卒)

最後にになりましたが、母校の教職員皆さま、生徒及びご家族の皆さまのご健勝をお祈りしております。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの母校への支援をしていきたいと考えております。

ました。

総会・懇親会の前に、千葉県生物学会会長でもある植物学者の西田治文先生(昭和47年卒)による、「植物化石から考える持続可能性」と題するご講演をいただきました。古代の化石から現代の持続可能性について考える、とても興味深いご講演でした。

昨年と同様、総会・懇親会の前に講演会を開催したことで、講演会も、また懇親会での懇親の時間も十分にとることができ、充実した会となりました。

本年の東京葛城会の総会・懇親会も、上野精養軒において、10月16日(金)に開催する予定です。既に会場の予約も済ませており、夏ごろにご案内のメールを配信いたしますので、奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。なお、会費につきましては今年も1万2000円を予定しております。



★成田葛城会

前幹事長 岩下豊久 (昭和42年卒)

志津本において、年1回の東金葛城会総会を開催いたしました。今回は、千葉高同窓会会長の林孝二郎氏および学校長の高梨祐介先生をお招きし、同窓会の事業報告や在校生の活躍に関するご講話をいただき、和やかなひとときを過ごすことができました。また、当日は恒例のゴルフコンペも実施し、会員相互の親睦を深める有意義な一日となりました。

本年一月、同窓会事務局から原稿執筆のお願いのメールをいただきました。「昨年事務局にお手紙をいただき成田葛城会が解散ということを知ったのは誠に残念でなりません。(中略)2001年以降の学区再編成により、最近成田在住の若い同窓生も増えているようです。そういった彼らがいづかの日か成田葛城会を再興してくれることを望んでおります。」とのコメントが添えられておりました。成田葛城会は平成15年に発足しました。当初は成田・富里等名簿登録者は約90名で参加者も20名程おりましたが、近年は名簿登録者が30名程で参加者も10人に満たなくなりました。平成24年・25年には佐倉葛城会と合同葛城会を開催したり、27年には成田・富里・八街の同窓生に勧誘の案内状を出したりしましたが効果はありませんでした。そのような中で会長の体調が思わしくなく、後任会長の選出も困難であったことから、ここ数年間に参加のあった21名の会員に会の今後についてアンケートを採りました。その結果は、解散もやむを得ないが8名、存続すべきが2名、佐倉葛城

★船橋葛城会

会長 應和恵子 (昭和49年卒)

会との合併が5名などでした。昨年は私自身も会の開催等の準備ができていない事情があり、心残りではありましたが、9月30日に解散することになりました。当葛城会が再発足できることを願いつつ、皆様に感謝申し上げる次第であります。

第43回船橋葛城会は、令和7年6月1日に市川の山崎製パン企業年金基金会館、陽光の間に開催されました。昭和33卒から62年卒までの幅広い年代の30数名が親睦を深めることができました。恒例のミニ講座には、「アリストテレスのなぞを解く」と題し、宇都宮大学応用生命化学科・生命有機化学研究室所属の飯郷雅之教授にお話し頂きました。最初にご自分の通信簿をお見せになったのでどのように話が進むのかなと思っていましたら、いつの間にか脳の話や体内時計の話に移り、難しい内容であったものの、興味深い講座となりました。秋の散策会は、10月26日に「清澄白河の散策会」として、門前仲町集合↓清澄白河庭園↓昼食↓冷厳寺(松平定信の墓所)↓深川江戸資料館↓中締め↓解散という流れで、総勢8名で楽しく下町をのぞろ歩きをしました。

★佐倉葛城会

会長 荒井茂夫 (昭和45年卒)

第44回船橋葛城会は5月31日に市川の山崎製パン企業年金基金会館にて開催する予定です。また春の散策会は4月5日に谷津干潟を予定しています。最後に、船橋葛城会では在校生の学業以外の活動も陰ながら応援してきましたが、第43回船橋葛城会では校長先生から「令和6年度関東大会以上に出場した部活動等」の資料を頂き、出席者は様々なジャンルで活躍している在校生の様子に大いに感心いたしました。これからも船橋葛城会では現役中高生の活動を応援しています。

執筆時、政界では自民党高市総裁の下、衆議院選挙での歴史的な大勝で新たな政治の局面を迎えようとしています。低迷する日本経済、外交、経済安全保障関連も含め未来が豊かに強い日本になることを望んでやみません。さて、佐倉葛城会もおかげさまで今回21回目を迎えることができました。前回同様佐倉市内の老舗蕎麦処「川瀬屋」にて令和7年11月23日に開催いたしました。当日は来賓として林孝二郎千葉高等学校同窓会会長及び高



梨祐介千葉高等学校校長をお迎えし総会は非常に盛況でした。特に参加人数の多い卒業年度の団結力は驚くばかりで35年度卒(5名)、42年度卒(5名)、51年度卒(3名)のスピーチが圧巻で会を盛り上げていただきました。例年、総会の参加人数は各卒業年度1〜2名程度ですが、今後は各卒業年度への同期の輪を広げていくと共に、重要なことは若い世代?にメール等で佐倉葛城会総会への参加を呼び掛けていきたいと思えます。尚 山田会長より健康上の理由で会長辞任の申し入れがありましたので、令和8年2月13日、臨

時役員会を開催した結果、新役員は会長に荒井茂夫(45年卒)、事務局長に脇谷義朗(52年卒)が新たに就任致しました。

今後も佐倉葛城会を盛り上げるべく鋭意努力したいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

★千友会

(千葉県庁千葉高同窓会)

会長 井本義則

(昭和60年卒)

千友会は、千葉県職員のうち、県立千葉高校卒業生による同窓会で、発足から58年を迎えました。

令和元年の台風・大雨による影響で総会を中止して以降、新型コロナウイルス感染症により活動停止を余儀なくされていましたが、昨年度ようやく活動を再開したところです。

また、新規会員についてですが、職員向け県庁内ホームページの「掲示板」に千友会の案内を掲載する、会員の皆様に未加入の方がお近くにいらっしゃればお声がけをお願いするなどにより、3名の方から入会希望のご連絡がございました。

学年幹事や役員体制の更新、同窓会名簿の作成など、総会開催の準備を進め、10月22日に「ホテルポルトプラザちば」で総会を開催いたしました。当日は、

来賓として同窓会の林会長、県立千葉高校の高梨校長先生にもご臨席いただき、出席者51名と多くの方に参加いただけました。出席状況といたしましては、各卒業年次、まんべんなく参加いただいたところですが、特に平成29年度以降の卒業年次の若い方々の出席率が高く、そのせいもあってか、会場は大いに盛り上がり

ました。約2時間の総会はあつという間で、最後は恒例の「校歌の合唱」で閉会となりました。今後も本会の活動を通じて、同じ高校で学んだ職員同士、歓談を楽しみながら、元気づけられたり、ネットワークを広げたり、世代、職種を超えたつながりがもてるようにすることができれば、と考えております。

★るのほな一杯会

会長 水谷正彦

(昭和45年卒)

のほな一杯会は県立千葉中・千葉一高・千葉高を卒業し、るのほな地に在籍した、あるいは在籍中の医師及び医学生の会です。千葉大学医学部教授6名が現在所属しています。

令和7年6月21日(土)、京成



1列目右から S42田邊政裕、S36北原宏、S45水谷正彦、R6細島美羽、S41大川玲子、S41西川哲男 2列目右から R4森珠青、R4鮎川瑞生、R3萱原慎太郎、S45稲田晴生、S47杉田克生、S37中野義澄、S63蓑輪百合子 3列目右から R3小田博之、R4富永泰正、R2石丸直樹、H9小野寺淳、H3伊藤彰一、H10石渡規生、S55古関明彦

した。次に、今年度の会計予算報告がありましたが、会計が逼迫しており会費の値上げが提案され、承認されました。次いで、最高齢である北村宏先生(S36卒)の挨拶、乾杯の発声で懇親会に移りました。参加者20名には57歳もの年の開きがありましたが、高校時代の話、大学時代から現在、更に将来の話、孫の自慢話まで和気藹々のな話盛り上がり楽しい時間が過ぎました。最後に、常任幹事の伊藤彰一先生(H3卒)の閉会の挨拶で会はお開きとなりました。

元氣なOBは学生を連れ二次会へ繰り出してきました。

OB・OG会だより

★卓球部OB・OG会

会長 長内 進

(昭和50年卒)

千葉高卓球部OB・OG会の2025年度総会を5月3日(土)に開催し、22名の方々に出席していただきました。特にこ



れまでの総会に出席する女性はいませんが、今回は坂嶋さん(H28卒)が2人目の女性として出席してくれて大変ありがたく思いました。主要な審議結果は以下のとおりですが、現役の卓球に対する取組状況や卒業したばかりの若手OB・OGがOB・OG会のメーリングリストになかなか加入してくれないなどの課題について議論できてよかったと思います。

(1) 2024年度の活動報告
・総会と千葉高杯卓球大会の開催、同窓会報の原稿の作成、会計監査の実施などを確認。

(2) 2024年度の会計報告
 ・前年度繰越金…455,037円、次年度繰越金…478,776円で、単独収支としては+23,739円の黒字であることを承認。

(3) 2025年度の活動計画
 ・千葉高卓球部OB・OG会のメーリングリストやサークルスクエアの継続的な管理、千葉高卓球部の支援などを継続実施していくことを確認。

(4) 2025年度の役員体制
 ・見砂さん(H08卒)と松永さん(H15卒)を新任オブザーバーとして選任した2025年度の役員体制を承認。

(5) その他
 ・22名全員が近況報告などのスピーチを実施。

★ サッカー部OB会

駒形 拓海 (令和2年卒)

千葉高サッカー部OB会の初蹴りを2026年1月2日に開催いたしました。当日参加された方にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

幹事は1年ごとに引き継いでおりまして、今回は毎度お手伝いいただいている松崎康弘さん(昭和47年卒)、一昨年の幹事の八木沼克生さん(平成30年卒)、昨年の幹事の秋山洗さん(平成31年卒)にご協力いただき、今年

初蹴りの幹事を務めさせていただきました。初蹴りでは毎年午前中に千葉高のグラウンドで紅白戦を行い、午後に懇親会を開催することとなっております。今年につきましては、例年懇親会で使用させていただいている会場が使えない事態となっておりますが、懇親会には今後も多くの人に参加いただき千葉高サッカー部の伝統を継承していくという目標のために、松崎さん・八木沼さん・秋山さんのご協力も賜りながらなんとか会場を手配することができました。

初蹴りの開催にあたり、引き継ぎのため昨年8月頃に卒業時ぶりに千葉高に足を踏み入れました。いざグラウンドに赴くと、ちょうど現役生とOBの方々との紅白戦が執り行われておりました。活気のあるグラウンドの雰囲気に触れた途端、高校生活の大部分を費やしたサッカー部での記憶が鮮明に蘇ってきたことを今でも覚えております。ベンチには私たちが現役だったころの顧問であられた堤先生が座っておられ、現役生相手に指揮を取られておりました。ベンチに駆け寄り挨拶に伺うと、自分の名前を覚えてくださっており、当時の話に花を咲かせました。

そして、2026年1月2日を迎え、初蹴りを執り行いました。

た。当日は50名以上の方が参加してください、世代を超えて交流を深めることができました。純粋にサッカーを楽しむ皆さんのお姿やピッチ外でも和気藹々とお話される皆さんのお姿を拝見しまして、OB会の意義を再確認することができました。初蹴り終盤には堤先生の前任の顧問であり、現在は日本サッカー指導協会(JFCA)で唯一のセミナードイレクターを務めていらっしゃる藤原さんにもお越しいただき、締めめの挨拶をしていただきました。

懇親会には学生から80歳を超える大先輩の方々まで、非常に幅広い年代の方々に参加していただきました。年代にとらわれず交流の和を広げることができただけでなく、大先輩の皆様からありがたいお言葉を数多くいただきました。大変有意義な会となりました。この懇親会をもちまして、「今後も多くの人に参加いただき千葉高サッカー部の伝統を継承していく」というOB会の目的を達成できたのではないかと思料しております。

お恥ずかしながら私自身今回初めて初蹴りに参加することになったため、いろいろとわからないことも多くご迷惑をおかけしたこともあったかと思いますが、最後までご指導いただきました。

御三方にはこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。また、年始にも関わらず千葉高グラウンドの利用を許可していただいた堤先生ならびに学校関係者の方にもあわせてお礼を申し上げます。これからも数多くの方に初蹴りに参加していただき、この会が同窓の交流を繋ぎ深めていく契機になる場として末永く続いて行くことを切に願います。

★ バレーボール部OB OG会

会長 菅井俊樹 (昭和60年卒)

『千葉高バレーボール部OB OG会の近況と今後に向けて』

2025年度より千葉高バレーボール部OB OG会長に選出されました。昭和60年卒業の菅井と申します。本会は、歴代顧問の先生方との懇談会が発展・統合される形で2010年に設立され、現役員への支援と会員相互の交流を主な活動としております。現在は二年おきに、数十名規模の総会を開催しております。

直近では、写真に示しましたように、2025年10月25日に千葉市内にて総会を開催いたしました。



ました。現役顧問かつOBの先生から、90歳近い大先輩まで幅広い世代の参加があり、大変盛況でした。

どの分野の同窓会にも共通する課題かと思えますが、本会においても構成員の世代に偏りが見られ、密接に連携している世代とそうでない世代との差が大きくなっています。特に20〜30

代の若手の参加が少なく、「高齢化」や「持続可能性」という大きな課題を抱えております。

私自身、しばらく関東圏を離れていたこともあり、これまで必ずしも熱心に同窓会活動に参加してきたわけではありません。しかし今回、多方面で活躍する高校時代の仲間と再び交流する機会を得て、大きな刺激と活力、そして各界の最新情報をいただくことができました。また、先輩からは千葉代表として国体に出場された際の貴重なお話を聞くことができ、大変有意義でありました。

千葉高同窓会の各グループにおいても、同様の状況があるのではないかと感じております。各グループ間の連携、そして特に現役の先生方や生徒の皆さんとの交流が、今後の「持続可能性」を考えるうえで重要な鍵になると考えております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

★水泳部OB O G G会

田中理敬

(令和4年卒)

9月5日、大学での競泳生活の集大成となる日本学生選手権を終えました。創部95年を迎えた千葉高水泳部において初の出場を果たすことができ、予選落ちという結果ではありましたが、

万感の思いでプールを後にしました。

振り返れば挫折の多い競泳人生でした。中学・高校と目標の関東大会に届かず、自分の才能に限界を感じて高2の夏に通い詰めたクラブを退会しました。しかし、そこから学校の部活動に専念したことが大きな転機となりました。コロナ禍の制限や屋外プールという厳しい環境下で、仲間と共に創意工夫を凝らし、高校最後の県予選で自己ベストを大幅に更新。目標に届かずとも、確かな手応えを感じました。

「工夫次第で壁は壊せる」という確信が大学生活の支えとなりました。



ました。コーチがおらず、練習時間も限られる中、大学で出会った仲間とともに知恵を絞りにし、ついにインカレへの切符を手に入れました。また、水泳に邁進する傍ら、限られた時間で成果を出す術を模索した結果、学業においても光栄なことに大学より優秀学生賞を授与されるに至りました。

かつての私にとって、全国の舞台や学業での表彰は身の丈に合わない夢でした。しかし、決して最高とはいえない千葉高のプールでの経験が、思考し続ける粘り強さを与えてくれ、想像だにできなかった景色を見せてくれました。競泳を通じて出会った仲間、支えてくださった先生方に感謝を込めて、筆を置かせていただきます。

★ラグビー部OB会

会長 長 英連

(昭和52年卒)

2025年3月23日 例年の「卒業生壮行会」は、卒業生がない(該当年の部員0名)ため、新3年生の志波組の決起を期して、グラウンドでのOB戦に近い練習、大教室で保護者会と共催で懇親会を開催しました。現役との練習に参加する若手、懇親会には初代OBも参加で県千葉ラグビー部の50年を超える年代が



集い、現役を応援するOB会の目的をしっかりと示すことができました。

4月以降は新入部員も加わり、春の大会は継続して合同チームでしたが、以降の市内大会や7人制大会は単独チームで奮闘、7月には慶応大学OBで元日本代表の野澤武史氏を臨時コーチに招き、技術と取り組み姿勢を学ぶ機会も設けました。

単独チームで臨む秋の大会前、8月16日に春同様、若手OBの参加で試合形式の練習、大教室での壮行会は初代OBからも参加し、保護者の皆さんも交えて、関係者総員で現役の背中を強く押すことができました。決起大会の前には、理事会にてコロナ感染拡大からの活動を総括して、



今後の取組みを共有化、決起大会後はOBのみの二次会を千葉駅近傍で設け、大いに盛り上げました。

秋の大会は、一回戦を順当に勝利し、二回戦の八千代松陰高校戦を9月27日、市原スポレクパークで迎えました。会場には多くのOBも応援に駆け付けました。結果は19・59で次戦に進

むことはできませんでしたが、FW戦は五角以上の戦いでしたが、エリア獲得では、県千葉のキックをよく研究され、敵陣内でのFW戦に持ち込むことができませんでした。しかしながら、2年間チームをけん引した志波組の持てる力を出し切った記憶に残る一戦でした。

これからも、春と夏のグラウンド・懇親会の活動を通じて、現役の活動を物心両面でサポートしてまいります。

★野球部OB会

事務局長 瀧岡 賢
(平成元年卒)

『OBにできること』再考』

昨秋の秋季大会において現役諸君はベスト32に進出。センバツ高校野球「21世紀枠」の競技成績要件を満たしたものの、推薦選出には至らなかった。この事実は、競技成績以外の観点において工夫の余地が残ることを示唆している。

「21世紀枠」では、創意工夫した練習、学業と部活動の両立、地域への好影響など、活動の「中身」が総合的に評価されるようだ。とすると、競技力向上を大前提としつつ、このような「中身」を磨き上げていけば、甲子園への道が拓ける可能性がある。

◇ ◇ ◇

これまでOB会によるサポートは、練習補助や金銭的支援がその中心であった。県内トップクラスの支援実績は、まさに伝統の為せる業である。これをさらに深化させ、「中身」を磨くために「OBにできること」はないだろうか。例えば、社会で培った「野球以外の知見」を活かして

目標を言語化し、短い周期で振り返りを行うといった企業のマネジメント手法を、現役諸君と連携して成長の仕組みとして部内に取り入れていけば、競技力向上と同時に「創意工夫」を継続的に生み出す土台を整えることができるかもしれない。

さらに、こうした取り組みを通じて選手自身が成長ノウハウを身につけ、それを次の世代へと受け継いでいく文化が育まれば、「野球の枠」を超えた新たな価値を生み出せる可能性がある。仮にその価値を他部等に展開できれば、「周囲に良い影響を与える」という観点とも自然に重なるだろう。

◇ ◇ ◇

もちろん主役は現場である。その前提で、各界で経験を積んだOBがそれぞれの立場から成長の仕組みづくりに関与する。甲子園を目指す過程そのものが現役諸君の将来の糧となるよう

な、新しい支援の形をOB会として模索して参りたい。

7回目の甲子園出場は、OBにとっても長年の悲願である。

【現役選手の活躍】紹介

昨年12月、日台親善交流試合が開催され、2年生の加賀谷一さんが千葉県選抜選手として台湾に遠征しました。

投手として2試合に登板、6イニングを投げて奪三振が9つと、見事な活躍を見せてくれました。

現役諸君の夏の大会の活躍にも是非注目下さい。

★葛城柔道会

(柔道部OB会)

会長 中 壘 公 明
(昭和48年卒)

『千葉中・千葉高の柔道部を応援します!』

葛城柔道会は、柔道部の卒業生から構成されており(歴代顧問・特別会員を含む)、現役生の活動を支援するべく、夏・冬の年2回道場に足を運んで、一緒に汗を流しています。1月の寒稽古では初の試みとして、昼食会を開催し好評を得ました。

昨今、我が国における柔道人の減少が懸念されており、そんな中、卒業後も柔道を続ける



る会員が増えていきます。七帝(旧帝大)柔道大会の出場選手を出身高校別で見ると千葉高の占率は上位であり、また、当会前会長(吉成先輩(昭和42年卒))は国際大会で優勝(2023年アブダビ)するなど、輝かしい実績を誇ります。このように、当会の活

動を通じて現役生を支援することで、柔道の普及・振興にも貢献できると考えており、支援体制の盤石化を進めて参ります。2028年の高校創立150周年の年に、当会は130周年を迎えます。これを良い機会ととらえ、連絡体制を整備しております。「自分や友人が柔道部の卒業生」という方は、連絡先をメールいただけますと助かります。これからも柔道部並びに葛城柔道会をよろしくお願いたします。

katsuragijudokai@gmail.com

お待ちしております

最新の現役生(中高あわせて18名)戦績

(高校) 青葉杯柔道大会/男子

子団体戦出場/女子個人

準優勝、関東大会県予選

/男子団体戦ベスト32、

県大会/男子団体・個人

戦出場、女子個人戦ベスト

16、第7回文武両道杯

全国大会/女子団体3

位、県新人戦/女子団体

5位

(中学) 千葉市中学校柔道大会/

81kg級優勝、男子73kg級

第2位。

学年短信

●昭和25年卒

矢島 肇

学年短信を書き始めて早いもの半世紀となる。時代は相当に変わって同期会は疎か同期の友は既に多くは現世を離れネタは無になり今は個人の思い出を書き外にない。

昭和十九年の春というから凡そ八十年。戦争中の事である。同期は小学六年生、皆次を目指していた。私の学校では受験校は成績で決められていた。私の学校から受験した人の全んどが千葉中学に合格したが、なんと優秀だった二人が不合格であった。時局柄試験は紙を使用せず全んど口答試験であったが、二人の不合格者はこれが影響した以外考えられなかった。それから二人とは遠く離れてしまった。が、月日が過ぎ一人は別の学校で三年間学年トップ級長をつとめ、大手一流の電器会社の役員となった。一方他の一人は一浪後医の道を進んで医学部の口腔外科部長になっていた。小学時代の事は笑って話すようになった。出来の悪い多くを彼らはどう眺めていただろう。千葉中(高)は矢張り憧れだったのは真違いない。遠い戦争中の事である。

●昭和28年卒

幹事 市原利久

昭和九年四月二日(昭和十年四月一日生まれ)の学令者は学校制度の変更毎に新学名の学校に進学しました。

昭和十六年、国民学校初等科入学「義務制六年間」「高等科二年間」任意。一、二学年は男女共学、三学年より別学となりました。

昭和二十二年より新制中学校となり、男女共学「義務制」となりました。

学校制度は出来ましたが校舎不足は否めず、大型倉庫を借用する有様でした。

そこで私立の旧制中学校に併設の新制中学校に進学する者もいましたが公立中学校が整備されると三年間で廃校となった。

昭和二十五年四月、新制の千葉県立千葉第一高等学校となり事実上、最初の「男女共学制」となり普通科に入学しました。

昭和二十八年三月に卒業、「二八会」と称して、昭和四十七年より四月の第一日曜日「一日を除く」に市内のホテルで同期会を開いていましたが、「コロナ」の影響で「例会」を停止し、有志で期日を決めずに集まっています。毎回、市内在住者、四、五名でいづれも配偶者も健在です。

本年も四月上旬に集まる事を計画しています。

●昭和30年卒(三十年会)

会長 大塚正明

令和7年の30年会総会懇親会は、11月2日京成ホテルで開き、31人が参加した。前年の会が、米寿を祝う会だったので、多少減るのでは、と心配したが5人も増えた。みんな元気で、話が



進むにつれ、昔の顔に戻った。

この会の一番の目的は、総会をいつまで続けるか、出席者の意見で決めることだった。会長として私は数年前から「90歳になるまで続けないか」と言い続けていたが、先のことは責任が持てず、自論にとどまっていた。

「よくぞこの歳まで」という思いを共有して、「ここらでひと区切りがよからう」と、令和8年11月の総会を「卒寿を祝う会」を兼ねて最後の総会とすることにすんなり決まった。

想えば卒業してからはや70年、長い人生の中で高校時代の3年間が一番元気だった。運動、文化活動も盛んで、野球が強かった。1年先輩の年に甲子園に出場しているし、私たちの時もあと一歩だった。佐倉高校にはあの長嶋さんがいて、その後の野球界一番のスターの片鱗を見せていた。私は3年間バスケット部にいたが、2年先輩が県大会で優勝、インターハイに出場した。バレー、テニス、サッカー、柔道部なども強く、優勝もしている。文化クラブも書道部など活発で、勉強の面でも東大進学も県下有数だった。

総会をやめるといっても、まとまりのいい学年で、長年、西千葉でスナックをやっている事務局長の店に、定期的にカラオケや飲み会に集まることは変わらない。よき仲間に恵まれ、「30年会は不滅」です。

●昭和31年卒

幹事 山口 齊

今を遡ること、七十年前の一九五六年(昭和三十一年三月)、我らは、葛の葉繁き、丘の上に建つ、当時の県立千葉第一高校を卒業した。

故に、同期の会を「三二会」と称し、今日に到っている。

二〇二六年の新春を迎へ、「数ふれば、卒寿を迎ふ、初日の出、平和な世なれと頭を垂れぬ」と、新春を寿ぎ、祝酒に頬を染めていると母校同窓会から一通の封書が届いた。

何事かと開いてみると、同窓会広報委員長から、同窓会報に、スペースを取るのので、原稿を寄せられたい、との恐れ多い依頼であった。それを手にしながら、さて、何を?と思索している所に、願ってもいない情報が入り、同じ三二会の仲間である友人から届けられた。

それは、今年、米寿を迎える仲間たちの現在の健康状況について、アンケート調査をした結果をまとめてくれたものである。これを、「三一會短信」として、同窓会報に扱っていただけると、同窓各位の日常生活の参考

になるのでは、と考えたわけがある。

アンケートに回答を寄せてくれた人数は一六七名、因みに、三一会員の入学時の定員は三百二十名だった。

回答の内訳は、次の通り、

- (一)元気で生活している者 八十七名
- (二)体調不十分の者 十九名
- (三)逝去、 四三名
- (四)回答なし、 十八名
- 以上 一六七名

● 昭和41年卒

北原理雄

(千葉大学名誉教授)

『千葉市パラスルギヤラリーを

ご存じですか?』

毎年10月の第一土・日、千葉駅前大通り(中央公園プロムナード)の歩道に数十本のパラスルギ



①



③



②

並び、市民の手づくり作品が街を彩ります。

千葉市パラスルギヤラリーと名づけたこのイベントが始まったのは26年前です。その前年に駅前大通りがいまの姿に整備されました。ケヤキ並木の広い歩道ですが、朝夕を除くと人通りが少なく、活気がありません。

ここを街の顔にふさわしい賑わいと交流の舞台にしたい。地域の民たち、千葉市の担当者、千葉大学の教員・学生がアイデアを出しあって生まれたのがパラスルギヤラリーです。歩道にパラスルギを並べて市民の作品を展示し、街を交流型のアートのベースにする試みでした。

パラスルギヤラリーの特色は、市民が手づくり作品を展示すると同時に、実行委員会に参加して企画・運営に携わっている点です。市民・行政・大学が協力して街に生き生きとした交流を実現しています。

いまは歩道を利用したイベントが珍しくありませんが、当時は道路は交通のための空間とする考えが強く、許可には困難が伴いました。国が歩道の柔軟な利用を認めるようになったのは数年後です。私たちの挑戦は、先駆的な実践のひとつでした。

近年、駅前大通りでは屋台横丁やフードロス対策を掲げるマ

ルシエなどが行われ、千葉市もウォーカーブルな街路づくりの取り組みに着手しています。

パラスルギヤラリーは今年も10月3日、4日、白いパラスルと市民の手づくり作品で街を賑わいと交流の舞台にします。

ぜひ、足をお運びください。写真①は賑わうパラスルギヤラリー。②は筆者。③は昨年の第50回同期会出席者一同。

● 昭和44年卒

森 茂

『タスキをつなぐ』

1950年生生まれの私たちは、千葉高一年生での入学から昨年で60年が経ち、後期高齢者の一年生となりました。同期会の名簿を見れば、既に8人に1人は彼岸に旅立っており、折々に「老病・死」を考えるお年頃となりました。とは言え、生死は表裏一体のもので、死を考えることは「生」を考えることでもありましょう。その際、いずれ「介護」を受ける際に一番大切なこと(ナルホド)だそうですから、周りから好かれる老人を目指した

いものです。また、健康寿命を伸ばすための努力も必要ですが、「若返り」は、己れのこととしてよりも次の世代へのバトンタッチ

の仕方を考えることの方が重要かも知れません。奇しくも高校同窓会の会長が、昭和三十九年卒の林さんから五十四年卒の池田さんに代わりました。校歌に「遠き歴史は力なり」とあるように、これまでの蓄積を土台として同窓会が一層活性化すること祈っています。個人としても七十五年の年輪が無駄にならないように、周囲への関心を失わずに、己れの出来ることに集中して生きていきたいと思っています。

※次回(第八回)同期会は、二〇二七年十月に「喜寿記念」として開催予定です。皆さんと元気で会いできることを願っています!

● 昭和47年卒

村上 昭

2025年10月30日に、二年前に同期会を開催しました。場所は東京 秋葉原。総勢79名が集まり、楽しいひと時を過ごしました。今回の話題の一つは、2022年に作家デビューした御木本あかり ことG組神谷ちづ子さんの第二作『終活シェアハウス』のドラマ化(NHK BS)です。ちょうどドラマ放送期間(10月19日~12月21日)に同期会が開催されるタイミングの良さ。神谷さんから、ドラマ化の裏

話を紹介してもらいました。ドラマと原作の違いなど、原作者ならではの興味深いお話を聞く事ができました。

この47年同期会は、卒業後20年にあたる1992年に始まり、幹事はA組から持ち回りです。今年もH組の担当で、これでA組からH組まで2周しました。私達も後期高齢者に近づく中、今後とも同期会を持続していくためには、幹事の負担を少しでも減らすことが欠かせません。時代に合った合理化・省力化に取り組んでいます。

例えば、
・Eメールでの連絡を基本として、Eメールを使えない人だけに開催案内をハガキで通知
・ハガキも、往復ハガキをやめて、ハガキに付けたQRコードからネットで出欠回答や近況報告。

これにより、出欠確認や当日配布した近況報告集作成などの手間を、大幅に削減できました。今回はA組に戻り、3週目に突入します。同期会歓談中に、早くも次回の検討が始まりました。日程は2027年5月半ばから6月半ば頃の平日昼間、場所は千葉「京成ミラマーレ」の予定。なお、A組とB組の共同開催です。次回の概要発表を受けて、「二年後の再会」を約束し、第

14回同期会は、無事、お開きとなりました。

● 昭和49年卒

IT担当 村松 知

千葉高を巣立って半世紀。私たち昭和49年卒は、古希という節目を迎えつつも、変わらぬ交流を続けています。

かつては不定期だった学年同窓会も、ここ20年ほどは大体2年に1度、千葉で開催しています。仲間との再会が生活の楽しみの一つとなっています。

これまでは往復はがきの返信を一枚ずつ手作業で集計していましたが、2025年の開催では初めて「Googleフォーム」による自動集計を導入しました。始めは独自のホームページを制作してその中に出欠回答ページを設ける案も出ましたが、管理の継続性や手軽さを考慮して、あえて複雑なサイトは作らず、フォームの簡便さを最大限に活用する道を選びました。はがきにはフォームのURLをQRコードで印刷して、スマートフォンで即座に回答できる仕組みを整えたところ、多くの仲間がスムーズに対応してくれ、集計作業は劇的に効率化されました。

また、会場で参加者や幹事団

が撮影した写真も3年前の会からは「Googleドライブ」を活用し、共有しています。現状かしく思えるほど、今では鮮明な当日の熱気を即座に分ち合えるようになりました。

新しい技術を活用して幹事団の手間を削減しつつこれからも再会を重ねていきたいと思えます。

● 昭和50年卒

園部 創

令和8年2月7日の千葉高同窓会に、我が学年は60歳還暦幹事以来の人員が集合した。卒業以来音信不通となっていた者も来てくれたのは驚いた。外交官としてずっと海外にいたため、これまで同窓会に参加できなかったとのこと。

今年も古希祝いを兼ね、学年同窓会を11月14日(土)15時より京成ホテルミラマーレ16階スカイバンケット イル・ミラマーレにて開催する。2次会も同ホテル2階のレストラン、ディスプレイ(18時30分より)にて実施する。多数の参加を期待している。

出来る限りの連絡網を使って9月に開催案内を行う予定ではあるが、連絡先不明の同期が多数いる。この同窓会報を見て初め

て知った同期は是非連絡をもらえればと思う次第。

連絡先

sonobe0705hson@ezweb.ne.jp

● 昭和54年卒

西 高志

『2026年同期新年会』

S54卒同期で毎年新年会を実施しています。私は就職先が関西方面だったので千葉に帰って来ることは年に数回でしたので、

友達には年賀状で「千葉に帰ったら飲みにも行こう」と20数年書いていたのですが実現せず、「やっぱり言うだけじゃダメだから今年はずせやろう」ということで、初めは千葉の居酒屋で10数名で始めました。

幹事役の友達が同期の参加者を集めてくれたおかげで、初めて話をするメンバーもいましたが、やはりクラスは違えど同期ということですぐに意気投合して楽しい会になりました。それからは毎年口コミで参加者も増えて正月3日の忙しい時期ですが、毎年30〜40名ほどが集まる会となっています。

新年会ではだいたい会食しながら各自近況報告などをするのですが、皆さん話はだいたい面白いです。仲間ともよく話をしますが、やはり千葉高生は個人的に優秀な人が多くて人間的にも素晴らしい人材が多いなと感心しています。各方面で活躍している方も芸術家も多くて素晴らしいです。有名な歌姫にも歌っていただきました。

我々も昨年65歳を迎えそろそろ第二の人生を考える時期になりましたが、現在では仲良いメンバーとは年に数回は会えるし、旅行会まで企画してくれるメンバーもいるので楽しい時間を過ごすことができます。



素晴らしい友達に出会えたことは幸せだと最近しみじみ思います。末永くみんなと楽しみたいと思います。同期バンザイ!

● 昭和58年卒

道添宏樹

私たち昭和58年卒業生が同窓会の総会・懇親会学年幹事を務めてからあつという間に1年が過ぎました。一連の事後処理も無事に終わり「世話人会」もその役目を終えました。その後この1年間、同級生が中学・高校の在校生向け講演会の講師を務めさせて頂くことで、母校のお役に立てる機会を得ました。2025年6月3日に高校生を対象として東京大学教授の森川



博之君がDXに関連して「デジタルへの向き合い方」と題して講演を行いました。自身の高校時代の思い出話を交えつつ、これから大きく変わっていく世界を予見させる大変楽しい講義内容でした。又、中学生を対象に同年6月20日には三井物産スチール執行役員の水嶋(旧姓溝部)慶子さんが「商社という仕事」その志で世界を動かせ」というテーマで、本年2月27日には三井物産OBの田島信幸君が「カーボンニュートラル2.0」CNは新たな局面へ」と言うテーマで講演をしました。ご両名共に日本だけでなく世界経済をけん引している企業での経験を基にした内容で、聴講生たちが我が国の将来を担い「世界平和の民」となる為の道標になったとすれば幸いです。さらには、このご報告が掲載される同窓会報ではJR東日本の社長を務めている喜勢陽一君が紙上インタビューに登場しているかと思えます。今年には順次62歳になっていく同級生ですが、まだまだ意気軒高に各所で活躍中です。先般の総会にも20名が参加。来年は

隔年開催の同期同窓会を企画する予定となっております。楽しみます。

● 昭和59年卒

折原 亮

『総会幹事・昭和59年卒の一年』 本年2月の同窓会総会・懇親会の開催にあたり、校長先生や恩師の先生方、同窓会役員や事務局をはじめ同窓生の皆様から多大なるご協力と励ましを賜りましたこと、幹事学年を代表して心より感謝申し上げます。

開催に向け、名簿委員として同期の連絡先把握に奔走いたしました。その結果、約6割の同



期とメール連絡が可能となり、大きなネットワークを築くことができました。また、総会幹事としては、千葉近郊の在住者や東京葛城会で幹事経験のあるメンバーを中心に準備会を結成。会場手配からプログラムの構成、案内発送、当日の運営に至るまで、幾度も協議を重ねてまいりました。

この過程で、同期会や女子会、部活動の有志会なども活発に開かれ、旧交を温める貴重な機会となりました。

迎えた当日、昭和59年卒の参加者は123名にのぼり、2次会からもさらに9名が駆けつけました。恩師の嶋田先生、越川先生、新川先生、鈴木先生、戸田先生にもご臨席を賜り、会場は華やかな熱気に包まれました。

アトラクションでは、今泉さんの楽書、武井さんのピアノ演奏、大野さんのトークショー、中山さんのビデオレターを披露。後半の増田さんの指揮による校歌斉唱、松井さんのエールに至るまで、出演者の素晴らしいパフォーマンスによって会場は一体となりました。

紙幅の都合上、当日の様子は語り尽くせませんが、詳細はホームページ「県立千葉高昭和59年卒同期のページ」に掲載い

たします。今後とも、同期の絆を大切に同窓生の皆様と元気に再会できる日を楽しみにしております。



●昭和61年卒

増田 淳

故郷は遠きにおいて想うもの
と言うが、千葉高のある葛城台
は私の地元である。縁あって千
葉高に入ったが、隣の葛城中学
出身なので、通学距離はほとん
ど変わらない。卒業後も一度も
千葉を離れること無く、今に至
る。県外で活躍する同級生も多
い中、地元に残る決断をした人
生に悔いは無い。

振り返れば、人生は決断の連
続である。千葉高を受験するこ
うい決断は、私にとって人生最
初の賭けであった。家が近いか
ら簡単に入れるというものでも
なく、自己採点の結果は458
点、まさに当落線上である。そ
んな調子だから、入学してすぐ
に感じた、「ここは俺のいる場所
じゃない」。完全な自己喪失であ
る。冗談抜きに、退学しようと
思ったことも一度や二度では無
かったのだが。

それでも、必死になれば何と
か展望は開けるものだ。周囲の
友人の勧めで難解な本を読むよ
うになり、放課後は議論に花が
咲いた。社会問題に関心をもち、
弁論にも熱中した。今思えば、
相当に個性の強い友人達に感化
され、自分の思考の原点が形成

された。実に有意義な3年間で
あったと思う。

そんな私達の学年も、卒業し
てから早40年が経過した。還暦
は、もう目の前である。先日、
卒業以来初めて千葉に戻ったと
いう同級生から着電、旧交を温
めた。一緒に正門の坂を上ったの
だが、彼曰く、「千葉高もこれで
見納めだ」。そんな大げさな、と
も思ったが、明日の我が身を計
り知れない今日この頃。皆様と
の再会を楽しみに、一日一日を
しっかりと生き抜いて参ります。

●平成元年卒

角田陽一郎

平成元年卒の私は、只
今55歳である。千葉高時
代からの夢はクリエイター
で「将来は何になりたいの
か?」と考える際に、「著名
人が〇歳の時に何をやって
いるか?」を常にメルク
マール(目標)としてきた。
大学を出てTBSテレビ入
社時の目標はナポレオン
(笑)。彼は1799年30歳
でブリュメールのクーデタ
で統領政府を樹立して皇
帝への道を進む。自分も30
歳までにはテレビ界の皇帝
になってやると意気込んで



いた(笑)。しかしその夢は軽く
挫折し、次の目標は42歳で文壇
デビューした遅咲きの松本清張。
ただの会社員じゃなくて自分の
名前が勝負をかけるギリギリの
年齢だと目標にしていたのだが、
期せずして42歳の時に映画監督
をやり翌年にはビジネス本で著
者デビューを果たす。でもやは
り小説家でデビューしなければ
と思い50歳手前で亡くなった夏
目漱石には及ばずとも自分もそ
の年までに小説を書くかと思
いつつ、51歳の誕生日に小説『AP』
を上梓することになる。では「ク
リエイター人生の最終目標はい
つだろう?」と思った時に、雑誌
の編集長をやりながら「アンパン

マン」を55歳で発表したやなせた
かしが僕のIP創作の最後の目
標年齢であった。すると昨年末
に講談社よりTropicという
雑誌を創刊する運びになり、今
は「エモーショナル・ナイト」と
いうアニメをNTTとTBS共同
で制作もしている。学友に久々
会うと「角田は高校時代の夢を全
部叶えてるじゃん!」と言われた
りもする。55号に55歳の夢を載
せて、高校時代の妄想で、今も
生きている。

写真 高校時代の憧れのガンダム
富野由悠季監督と。雑誌「T
ropic」編集長対談より

●平成12年卒

東 寿浩

平成12年、すなわち2000
年卒。2025年は卒業して四
半世紀を迎えた年です。
「何とか今年中に同期
会を開催できれば」と、
周囲を巻き込みながら
動き始めたところで
す。」と書きました。書
いた以上は有言実行。
ということ、4月に
幹事有志を組織、同期
会開催に向けて計画を
立て始めました。
仕事も子育ても忙



しい年頃。皆の都合がよい日とい
うものがなかなか見つかりませ
ん。話し合いを続ける中で、メ
ンバーが一番多く参加できるの
は年末年始ではないか、という
話になり、2026年1月3日、
千葉高卒業生の宝川絨司さんが
経営する「TREASURE RIVER
book cafe」で無事同期会を開催
することができました。厳密に
は2025年ではないのですが、
卒業25年を迎えた「2025年
度」中の開催をできたので、自画
自賛で恐縮ですが、よかったです
思っています。

50名程度の参加者が集い、高
校時代の思い出や近況について
の話に花が咲き、あつという間
に時間が過ぎていきました。途
中には近況報告タイムも設け、
日々前向きに頑張っているメン
バーから元気をもらうことがで

きました。四半世紀振りに会っても、頭の中が一気に10代に戻っていく感覚、最高でした！一緒に幹事を担ってくれたメンバーの皆、ありがとう！

約400人卒業生がいるうちの8分の1程の参加ですが、徐々に参加者を増やしていければと思います。

ここからが本番です！！

●平成18年卒

戸澤 庸子

今年の同級生紹介は高橋直也さんです。千葉大学文学部を卒業後、首都大学東京(現・東京都立大学)大学院人文科学研究科を経て2014年に高橋びすいとして作家デビュー。現在、ライトノベル作家兼シナリオライターとして多岐にわたる活動をされています。今年の1月には電撃文庫から13冊目の本が出版されています。

― 県千葉での経験や思い出は？

「総合的な学習の時間」の課題レポートとして、安部公房の『壁』という本を読み込み、その内容について、プラトンの対話編のような文章を執筆して提出したことがあります。今思うとレポートというよりも創作物に近かったのですが、そういうものを出しても個性として認めてくださ

る懐の深さが県千葉にはあり、いつも救われていました。担当教員の岩澤泉先生、ありがとうございました。

― 今後の目標、やりたいことは？

小説・シナリオのお仕事の幅をもっと広げていきたいです。たとえば、今まで書いてこなかったジャンルの分野に挑戦するなど、新しいチャレンジをどんどんしていこうと考えています。それがまた、自分の作家性を育てることに繋がるのではないかと思います。

― 千葉高生へのメッセージ

「好き」は最大の武器です。仕事にするにしても、しないにしても、それはきっとあなたの人生を豊かにし、あなたを強くたくましくしてくれます。自分の「好き」を信じて、日々、チャレンジしてみてください。

●平成31年卒

鶴屋 そら

『25歳の集い』

令和8年2月7日(土)オリエンタルホテル東京ベイにて、平成31年卒の同期会を開催いたしました。

『25歳の同期会』には141名の懐かしい同期たちが集まりました。私たちの世代はコロナ禍

の影響で成人の集いが1年延期となり、多くの制限の中で開催となった分、「30歳の節目を待たず早く皆と再会したい！」という切実な願いが今回の開催へと繋がったと感じます。



乾杯の挨拶は、同窓会委員を代表して小柴稔輝君にお願いしました。現在アイルランドで活躍中の彼は残念ながら帰国が叶いませんでしたが、ZOOM中継で乾杯の音頭をとっていただきました。現地の時刻は早朝の4時でしたが、笑いのあふれるスピーチで素晴らしい会の始まりとなりました。

司会は4年前と同じく、鶴屋雅大君と私が務めました。前回の司会を機に連絡を取り合うようになった私たちですが、彼らの猛烈なアプローチもあり(決



して誇張ではございません)先日結婚の運びとなりました。夫婦揃って再び司会を務められたことは非常に感慨深く、こうしたご縁を結んでくれた同期の繋がりを大切にしていきたいと強く感じました。今後も定期的に再会できる場を設けていければと願っております。

当日は八名の恩師の先生方にもお越しいただき、成長した姿で近況をご報告することができました。ご多忙の中、足を運んでくださった先生方に心より御礼申し上げます。

■恩師の先生方

(50音順)

近藤葉子先生、崎川聡子先生、佐々木浩志先生、末永明先生、鈴木望先生、中嶋泰鷹先生、深瀬匡江先生、宮道尚子先生



令和6年卒 成人記念第1回同期会

第76期同窓会会長

佐藤 慶明

令和8年1月10日(土)、ホテルグリーンタワー幕張にて、令和6年卒業生の成人記念第1回同期会を開催いたしました。

まず初めに、本会の開催にあたり多大なるご尽力を賜りました皆様、76期生を代表して心より感謝申し上げます。今回の同期会は、千葉県立千葉高等学校同窓会のご支援のもと開催することができました。このような貴重な機会をご提供いただきましたこと、76期生一同、厚く御礼申し上げます。特に、準備にあたりご指導いただいた阿佐事務局長、土屋事務局次長をはじめとする千葉高校の諸先輩方には深く感謝申し上げます。右も左も分からない同窓会委員に対し、温かく丁寧にご指導いただきましたこと、誠にありがとうございます。また、事前準備から当日の運営まで多くの場面で支えてくださった76期同窓会役員の皆様、さらには突然のお願いにもかかわらず快くお引き受けくださった司会・会場誘導担当の皆様など、多くの方々のご協力により本会を無事開催することができました。この場をお借りして、運営

に携わってくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の同期会には、林同窓会会長をはじめとする同窓会役員の皆様4名、本間先生をはじめとする恩師の先生方8名、そして同期252名、総勢264名にご参加いただきました。ご多忙の中ご臨席賜りましたこと、誠にありがとうございました。存じます。

さて、卒業から約2年が経とうとしております。振り返れば、私たちの高校生活は、学校行事をはじめとするさまざまな場面で新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。特に高校1年次にはマスクの着用が義務づけられ、昼食も前を向いて会話を控えることが基本となるなど、友人の表情をゆっくり見たり語り合う機会さえ限られていたように思います。そうした日々を経て、高校3年次には規制も徐々に緩和され、高校2年次まで一般公開のなかった文化祭から一転して外部のお客様をお迎えすることができました。その出来事を通じて、長く続いた大きな混乱が落ち着きつつあることを実感した瞬間を、今でも鮮明に覚えております。

成長し、新たな人間関係にも恵まれる一方で、それはまた別の「帰る場所」として、千葉高校で出会った仲間の存在が、心のどこかに常にあったように思います。

今回の同期会では、少し前まで私たちが身を置いていた千葉高校の空気に再び浸りながら、普段なかなか会うことのできない友人と高校時代の思い出話や近況報告、さらには将来の話に花を咲かせ、気づけば会の終わりを迎えておりました。改めて、私たちが千葉高校の卒業生であることの実感がたぎりとときとなりました。

次回の同期会は10年後の開催を予定しております。そのときは、仕事や生活環境の変化によって、同期の活躍の場はさらに多様になっていることと思いますが、同じ学び舎で出会った仲間であることに変わりはありません。今回残念ながら参加が叶わなかった恩師の先生方や同期の皆様も含め、次回はより多くの皆様と再会し、近況を語り合えることを心より楽しみにしております。

末筆ながら、本会の開催にご協力いただいたすべての皆様に改めて感謝を申し上げます。成人記念第1回同期会のご報告といたします。誠にありがとうございます。



75期 石川会長の乾杯



林同窓会長のご祝辞



76期佐藤会長の挨拶



司会・進行の橋本氏



同窓会の母校支援活動

社会人講演会への講師派遣

令和7年度 社会人講演会

今年度も同窓会の先輩方に御協力いただき、社会人講演会を実施することができました。

本号2頁で前校長先生が触れられるように、6月には高校1年生を対象に昭和58年卒の森川博之様による「『デジタル』への向き合い方」と題した講演が行われました。また、10月には高校2年生を対象に、平成12年卒から24年卒にわたる幅広い年代、様々な職業の先輩8人にお集まりい



6月社会人講演会

ただき、生徒達が自分の聞きたい先輩の下に集まりお話を伺うというスタイルの講演会が行われました。講師のお名前は2頁参照。普段聞くことのできない貴重なお話しをいただき、職業観や生き方についての考えを養う機会になりました。その様子の一部として、ここで、高校2年生の生徒による感想の一部を紹介いたします。

感想

本日は貴重なお話ありがとうございました。現役の医師の方からのお話を聞くのははじめてで、実際の医師としての一日の流れや、大学生時代のおおまかな流れを知ることができ、とても参考になりました。特に、学生時代にタテとヨコ両方のつながりを持つておくことが大事だということは初めて知ったので、もし私が医学部に進学できた際には実践しようと思います。また、新たな発見として、ワーク・ライフ・バランスがとれて生活ができるということがありました。医者はずっと多忙というイ



10月社会人講演会

メージがあつたので、今回のご講演で医者に対する負のイメージを一つ払拭することができて良かったです。他にも、現在の医療ではロボットによる手術なども行われていると知り、医療に関する新たなことも知ることができて良かったです。今回のご講演により、私の受験勉強において新たなモチベーションにすることができました。今後の受験勉強も頑張ろうと思います。本日はお忙しいなか、本当にありがとうございました。(佐藤先輩の講演)

令和8年度 定時理事会報告

令和8年1月17日(土)午後2時定時に母校大会議室にて、母校の高梨祐介校長、安田国土・大谷照久副校長、押塚法子教頭、笹本真佐美事務主幹をお迎えし、理事役員34名、校内事務局の先生方4名の38名が出席して開催いたしました。

川島康行事務局次長の司会で、林孝二郎会長の挨拶、高梨祐介校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、林会長が議長になり議事に入りました。議題は次の6議案でした。

議案1 令和7年度事業報告

年初1月11日に令和5年卒75期生成人記念同期会、18日に定時理事会を開催。2月1日に総会・懇親会を開催。3月卒業記念品(卒業証書ホルダー)の贈呈。4月同窓会報54号の発行並びに6千580部の個別送付。4月、9月、11月、12月に常務役員会を実施。その他千葉中高の社会人講演会への協力、令和8年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の準備を進めました。

議案2 令和7年度決算報告並びに監査報告

20頁記載の決算書をご参照ください。

名簿管理システム整備費が予算を110万円超オーバーしておりますが、一昨年から昨年度の維持管理費が重複してしまつたこと、データベース改修費用が、見積もりより大きくなってしまったこと、大幅に予算超過したため、さらに一部次年度へ支出が繰越となっております。

議案3 令和8年度事業計画案

1月10日令和6年卒76期生成人記念同期会をホテルグリーンタワー幕張で開催。同17日定時理事会開催。2月7日総会・懇親会を開催。3月卒業記念品寄贈。4月同窓会報55号発行並びに6千500部の個別発送予定。6月と10月に卒業生講演会。常務役員会を年3回定例で行い、母校150周年事業に向け、臨時役員会も行います。その他、来年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の準備を進めてまいります。

議案4 令和8年度予算案

令和8年度会計予算は21頁記載の通りです。収入の部で名簿管理システム整備に伴い減つてしまつた予備費を拡充するため、同窓会基金を300万円取り崩し、一般会計に特別収入として繰り入れております。

支出の部で名簿管理システム整備費に昨年から繰り越した支分を含めて計上しております。

150周年に向け臨時役員会が開催される見込のため、会議費予算を増やしています。

議案5 同窓会会則一部変更案

会則の改正では、副会長の定員につき、従来の4人から柔軟性を持たせるため若干名に変更することとしました。

議案6 令和8・9年度同窓会役員改選案

役員改選では3期6年務められた林孝二郎会長(昭和39年卒)が退任され、池田知行副会長(昭和54年卒)が新たに会長に就任されました。...

2025(令和7)年度 同窓会会計決算報告書

令和7年1月1日～令和7年12月31日

I. 一般会計

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 収入額, 増減, 備考. Section 1. 収入の部. Total: 14,195,118 円.

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 支出額, 予算残額, 備考. Section 2. 支出の部. Total: 11,022,464 円.

3. 差引残高 (次年度繰越金) 総額 3,172,654 円

II. 同窓会基金

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 収入額, 増減, 備考. Section 1. 収入の部. Total: 106,188,860 円.

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 支出額, 予算残額, 備考. Section 2. 支出の部. Total: 0 円.

3. 差引残高 (次年度繰越金) 総額 106,188,860 円

繰越金内訳 清水基金10,101,358円 石田基金96,087,502円

以上、報告いたします。 令和8年1月9日

監査の結果、適正であったと認めます。 令和8年1月9日

Accounting and Audit signatures: 岡田正, 中川朱理, 小澤晃, 山本康昭.

議案審議終了後、その他報告事項として同窓会名簿管理システムのバージョンアップの件、同窓会報の配布・寄付状況、各地域・職域葛城会、クラブOB・OG会、学年同期会の活動・開催予定及び叙勲・褒章、役員・理事の逝去

等についての情報確認を行いました。 議事終了にあたり、2月7日には総会・懇親会が従来通り開催されること発表され、昭和59年卒幹事団の折原亮様から挨拶がありました。

令和8年度 同窓会総会・懇親会

令和8年2月7日(土)、雪交じりの天気の中、午後3時30分より京成ホテルミラマールにおいて、母校の高梨祐介校長、安

田国土・大谷照久副校長、押塚法子教頭、笹本真佐美事務主幹と5人の恩師を来賓としてお迎えし、同窓会員334名、合計344名が出席して開催いたしました。 川島事務局次長の司会で、林

孝二郎前会長の退任挨拶、池田知行新会長の就任挨拶、高梨校長先生より母校の近況報告を含んだご挨拶をいただき、その後1月17日に開催した令和8年度定時理事会で承認された各議案の報告が阿佐幸雄事務局長、岡田正大会計及び土屋保之事務局次長により行われ、総会は終了しました。

続いて還暦年度の昭和59年卒が企画運営し、平成14年卒フリアナウンサーの笠井さやかさんが司会進行する懇親会に入りました。

会の冒頭、昭和59年卒の武田典子さんによるピアノ演奏をバックに同じく昭和59年卒の今泉岐葉さんによる楽書のパフォーマンス、カベルナリア吉田(昭和59年卒大野道弘)さんによるトクショー、朝日新聞記者の昭和59年卒中山由美さんの南極からのビデオレターが披露されました。3組の素晴らしいパフォーマンスに会場は大いに盛り上がりました。

黙祷に続いて59年卒の折原亮幹事代表挨拶、戸谷久子同窓会副会長の乾杯の音頭で、歓談となりました。

会場内に記念撮影スペースが設けられ、各部活、学年・クラス、果ては出身中学と次々に集まって記念撮影を行ない、カメラマンと司会者は休む暇がないほどで、

2026 (令和8) 年度 同窓会会計 予算

令和8年1月1日～令和8年12月31日

1. 一般会計

1. 収入の部

(単位: 円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
繰越金	3,172,654	11,016,669	-7,844,015	
同窓会入会金	1,600,000	1,615,500	-15,500	
寄付金	0	231,587	-231,587	
会報寄付金	1,200,000	1,285,500	-85,500	
名簿売上金	18,000	36,000	-18,000	
雑収入	9,346	9,862	-516	
特別収入	3,000,000		3,000,000	同窓会基金より繰入
収入合計	9,000,000	14,195,118	-5,195,118	

2. 支出の部

(単位: 円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 事業費	5,300,000	10,033,223	-4,733,223	
卒業記念費	150,000	142,618	7,382	卒業証書ホルダー
会報発行費	650,000	590,700	59,300	同窓会報第55号印刷 (9,000部)
会報配布費	1,500,000	1,397,484	102,516	同窓会報第55号個別発送 (6,500部)
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校 総合学習
学校活動振興費	100,000	40,000	60,000	中学校 社会人講演会
委員会活動費	100,000	26,716	73,284	委員会打合せ
支部援助費	300,000	0	300,000	
成人記念同期会支援費	1,000,000	636,025	363,975	76期成人記念同期会
名簿管理システム整備費	1,350,000	7,109,680	-5,759,680	名簿管理システムVerUP 及び年度維持
(2) 運営費	1,150,000	889,241	260,759	
会議費	200,000	178,580	21,420	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	166,540	33,460	総会・理事会資料印刷
通信費	350,000	299,560	50,440	総会・理事会案内ハガキ、電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	150,000	0	会長渉外費
事務局関係費	70,000	63,122	6,878	ホームページ維持管理、事務用品
事務局整備費	80,000	0	80,000	事務局什器等整備
雑費	50,000	31,439	18,561	振込手数料等
(3) 母校支援金	300,000	100,000	200,000	部活動支援
(4) 予備費	2,250,000	0	2,250,000	
支出合計	9,000,000	11,022,464	-2,022,464	(1)+(2)+(3)+(4)

II. 同窓会基金

1. 収入の部

(単位: 円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 繰越金	106,188,860	106,087,751	101,109	
(2) 特別収入	0	0	0	
(3) 雑収入	111,140	101,109	10,031	利息
収入合計	106,300,000	106,188,860	111,140	

2. 支出の部

(単位: 円)

区分	予算額	前年度決算額	比較増減	備考
(1) 一般会計への繰入金	3,000,000	0	3,000,000	
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
支出合計	3,000,000	0	3,000,000	
次期繰越金	103,300,000	106,188,860	-2,888,860	

大いに盛り上がりました。恒例の校歌は伊藤和夫、山本誠司の両先輩によるトランペットを伴奏とした旧制千葉中学校、武井典子さんの生ピアノ伴奏と、昭和59年卒増田潔さんの

指揮により千葉高校歌を声高らかに歌い、昭和59年卒松井克彦さんの音頭により、千葉中・千葉高へのエールで締めました。最後に幹事年度の盾が、昭和59年卒松井克彦さんから次回還

暦年度で幹事学年となる昭和60年卒を代表して埴良太郎さん、細久仁子さんに引き継がれました。埴さんからは、来年も2月第1土曜日に開催するので、今後

準備を進めていく旨、挨拶がありました。翌日の日曜日は千葉でも5cmの雪が積もる天候となり、1日ずれていたらどうなっていたかとホッとした一夜でした。



Profile

喜勢陽一 (きせ・よういち)

1964年千葉市生まれ。千葉市立院内小学校、椿森中学校を経て千葉高に入学。高校時代は文学に没頭するとともに生徒会の設立準備委員会で活動する。千葉高卒業後は東京大学文科Ⅲ類から法学部に進み、東日本旅客鉄道株式会社に入社。人事などの幅広い業務を担当し、2024年4月より代表取締役社長。JR発足後に入社した世代で初めての社長となる。趣味は読書、落語、ピアノなど。

したから「これからどうなっていくか誰にも確かな予測ができない」という状況でした。しっかりと組織が出来上がった企業に行けば大きな仕事はできたかもしれませんが、私はむしろ自らの手で創業できる可能性のあるJR東日本に魅力を感じました。

—入社後はどのようなお仕事をされたのですか？

喜勢 盛岡での実習を経て、上野駅に配属され、改札とみどりの窓口の仕事をしました。当時はまだ自動改札がなく、鉄で切符を切っていた時代です。駅勤務で強く感じたことは2つです。1つは改札は確かに重要な仕事ですが、いつでも人が担う仕事ではないということ。鉄道の仕事には、当時そうした仕事がたくさんありました。もう1つは、広い駅構内には立ち食い蕎麦屋とキヨスクくらいしか

なく、「こんなにお客さまがいるのに、なぜもっと商売をしないのだろう。」ということ、実家が問屋をやっていたことも影響しているかもしれないが、これが後の「エキナカ」事業への興味関心の原点かもしれません。

—まさに「商売人の視点」ですね。喜勢 その後は本社の人事や経営企画、投資計画などの部署を経験しました。特に印象に残っているのは、社長秘書を務めた時期と、大宮支社で人事課長をした時期です。

秘書時代は、当時の大塚陸毅社長の執持ちとして、経営判断のプロセスを間近で経験しました。鉄道会社から「総合生活サービス企業」へと舵を切る重要な時期で、完全民営化の達成、Suicaの導入やエキナカ展開など、大きな変革の意思決定から得た学びはその

後の大きな財産になりました。大宮支社時代は、お客さま第一線に近いところで「人と組織」に向き合いました。駅員、乗務員、メンテナンスといった職種の壁を取り払い、社員が自律的に動けるような組織風土を創ることに注力しました。制度で縛るのではなく、社員の意欲を引き出すことの重要性を学びました。

Suicaを「社会インフラ」へ

—現在、社長として取り組まれていること、そしてこれからのビジョンについてお聞かせください。

喜勢 まずJR東日本グループの経営のトッププライオリティであり私たちが鉄道人の不変の使命である「安全」を不断に高めていくことです。その上でコロナ禍の厳しい経験を踏んだ鉄道を中心としたモビリティと生活ソリューション事業の二軸により支えられた強い経営体質を構築することです。特に注力しているのが、高輪ゲートウェイシティに象徴される「まちづくり」と「Suicaの進化」です。千葉駅に隣接する支社跡地もいよいよ開発が始まります。また、Suicaは改札をスムーズに通るためのデバイスから生活全般につながるデバイスへと進化させます。

例えば、両手に荷物を持っていたり、ベビーカーを押していたりす

ると、改札機に「タッチ」する動作すら負担になる。そこで、タッチしなくても通過できる「ウォークスルー改札」を導入します。また、今年の秋にはご利用上限額を30万円に引き上げるコード決済をスタートします。さらにSuicaをタクシー、バス、空飛ぶクルマなど様々な交通機関や行政サービス、医療、教育などの様々な情報と連携した社会インフラへと進化させ、お客さまの生活をより豊かにする「Suica Renaissance」を始動しています。

—制度面はどうでしょうか？

喜勢 民営化1期生としての私の使命は国鉄との最後の節目をつくることにあるとずっと考え、行動してきました。そこで本年4月に人事・賃金制度の抜本的改正を行い、7月には業務遂行体制を根本から変革し、支社を廃止して36の事業本部体制とし、本社、事業本部の二層構造とします。これにより社員の働き方も大きく変えます。これにより名実ともに民間会社としてのJR東日本にしていきたいと考えています。

「アブレス・オブリージ」の精神を

—最後に、現役の千葉高生や、若い同窓生に向けてメッセージをお願いします。

喜勢 月並みですが、千葉高生には「高い志」と「夢」を持ってほしい

と思います。千葉高は進学校であり、ある意味で選ばれた人間が集まる場所です。だからこそ「ノブレス・オブリージ(高貴なる者の義務)」の精神を忘れないでほしい。単に偉くなりたいとか、良い給料をもらえればいいというだけでなく、世の中を良くするため、自分を育んでくれた郷里のために自分は何ができるのかという視点を持って学び、働いてほしいですね。それが、千葉高で学んだ私たちが受け継ぐべき「矜持」だと思っています。

—まさに、校歌にある、「世界平和の民となり」ですね。

喜勢 それからのような仕事に携わるにせよ、常にベストを尽くして熱中して欲しいですね。スティーブ・ジョブズの有名な言葉に「Connecting the dots」があります。これまでお話ししてきたように、その時にはそうとは分かりませんが、後に事を成すにあたって、それが大きな財産となっていたという事は必ずあります。ですから自分で自分の可能性に枠をはめることなく、たくさんの方に興味を持って取り組み、たくさんの方のd o t sを創ってください。そのためには幅広い学問やたくさんの方々に触れ、自分の頭で考える力を養ってください。

—貴重なお話をありがとうございました。

令和8年度 本部役員

☆は新任

会長 ☆池田 知行(昭54)
副会長 戸谷 久子(昭46)

先田幸次郎(昭49定)
☆吉田 節子(昭57)
☆折原 亮(昭59)
☆牧之瀬 孝(昭61)

顧問 ☆増田武一郎(学校長)
☆高橋 功(昭44)
☆上原 和男(昭46)

《事務局》

事務局長 阿佐 幸雄(昭35)
事務局次長 川島 康行(昭58)
土屋 保之(昭57)
中川 朱理(平12)
岡田 正大(平30)

《常設委員会》

総務委員長 ☆大澤 正明(昭55)
総務副委員長 ☆鈴木 卓(昭57)
名簿委員長 御園生博文(昭54)
名簿副委員長 内田 智子(昭48)
企画委員長 豊田 聡(昭57)
企画副委員長 東 寿浩(平12)
広報委員長 田中 航祐(平20)
広報副委員長 東 寿浩(平12)

※この他、参与、事務局員、理事等は、ホームページに掲載の総会報告をご覧ください。

チャレンジ応援基金 について

千葉県では、魅力ある学校づくりや各学校における特色ある活動を推進するにあたり、地域住民や卒業生など、様々な方から応援いただくために、令和4年度に「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」を創設しました。皆様からの御寄附は「教育活動プラン」に基づき活用されます。本校でも、プランを策定し、教育活動を充実させるため、次の通り、寄附金を募ることといたしました。

千葉中高の教育活動充実プラン (キャリア教育推進プラン)

短期留学や海外研修に係る費用の補助、実力テスト受験料の補助、外部講師による講演会の実施

【寄附募金額及び募集期間】

募 集 額 2,280万円
募 集 期 間 令和10年3月

寄附の方法等詳細につきましては、千葉県教育委員会ホームページの、「千葉県県立学校チャレンジ応援基金」のページをご覧ください。

どうか趣旨に御賛同いただき、御支援、御協力賜りますようお願い申し上げます。

千葉県立千葉高等学校



令和7年度 学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長

主幹教諭 田中 航祐
(平成20年卒)

千葉高校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

令和7年度は、校内業務として進路指導主事を担当させていただきました。

学校現場の一端ではありますが、近況報告として進路指導の様子をお伝えしますと、令和7年度実施の高3生の大学受験では、共通テストの出願が初めてオンライン化され、各自がマイページを作成して手続きを進める形となりました。

また、共通テスト後に各予備校が実施する自己採点結果のリリースについても、生徒一人ひとりがオンライン上で直接提出する形式へと移行しています。

いずれも私にとっては新しい取り組みで戸惑いもありましたが、生徒たちの主体的な対応と、関係の先生方のきめ細かなサポートのおかげで、大きな混

乱もなく無事にやり遂げることができ、安堵しました。

個別の大学入試においても、推薦型選抜を活用する生徒が以前にも増して見られるようになっていきます。最難関大学の推薦型選抜への合格者も複数おりました。出願においては、本校の「総合的な探究の学習の時間」でテーマを設定し、探究・研究活動を行ってきた成果がアピールされることもあります。当該の生徒たちの研究活動は、質・量ともに一般的な高校生レベルを凌駕しており、誇りに思いました。

各教科の受験勉強においても、生成AIや学習支援アプリを活用する生徒もいるようです。

時代の変化を実感する一年となりましたが、本校もこうした流れに取り残されることなく、日々アップデートを重ね、様々な状況に対応していく必要があります。今後、生徒一人ひとりの進路実現を支えていけるよう、学校として力を尽くしてまいります。

葛城だより

令和7年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

- 瑞宝双光章 大塚 君美(昭30)
- 瑞宝双光章 佐瀬 俊之(昭40)
- 瑞宝中綬章 神保 道夫(昭45)
- 瑞宝小綬章 戸谷 久子(昭46)
- 瑞宝単光章 先田幸次郎(昭49)

逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈り致します。

- 畑 昭次(昭26) 7年9月23日
- 日暮 英明(昭27) 7年6月21日
- 大橋 新太郎(昭28) 6年12月28日
- 宍倉 正胤(昭30) 7年1月19日
- 伊東 幹雄(昭39) 7年7月20日
- 今井 和彦(昭41) 7年11月29日
- 内藤 佳實(昭43) 7年12月6日

寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

- 成田葛城会 22,000円
- 平成31年卒同期会有志一同 50,000円
- 昭和58年卒同期会 150,001円
- 昭和59年卒同期会 100,000円

題字揮毫 辻元 大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒